

まちの話題

大和中学校が日本一に

全国中学校駅伝大会

12月21日(日)に山口県セミンナーパークで開催された第16回全国中学校駅伝大会で、大和中学校が女子の部で見事優勝、念願の日本一の栄冠に輝きました。



選手宣誓を行う榊野選手



トップでゴールする松村選手

全国から強豪が集う中、スタートから好位置をキープした大和中学校は後半トップに立ち、そのままゴールテープを切り、昨年の7位から、念願の初優勝を遂げました。出場選手は以下のとおりです。

- 1区 田中美帆 (2年)
- 2区 榊野千晶 (3年)
- 3区 末廣有希歩 (1年)
- 4区 植村友絵 (1年)
- 5区 松村朝美 (2年)
- 補員 平岡まひろ (3年)
- 松下奈津美 (2年)
- 久楽美沙 (1年)

また、開催地代表として出場した浅江中学校も、9位と大健闘しました。

結成35周年を記念して

「ミュージックキャラバン」が光市に寄付

12月16日(火)、アマチュアバンド「ミュージックキャラバン」(兼清健吾代表)から光市に、青少年の育成と福祉に役立ててほしいと35万円の寄付をいただきました。

これは、昭和51年から「ミュージックキャラバン」として、光市を中心に、施設訪問やチャリティコンサートなどの音楽ボランティア活動を続けてきて、今年で35周年になることを記念して行ったチャリティコンサートでの収益です。光市を代表するアマチュアバンドとして、今後のさらなる飛躍が期待されます。



今年の安全を祈って

光市消防出初式

1月7日(水)、年頭恒例の消防出初式が、市民ホールで開催されました。

制服に身を固めた市内各地区消防団員や、関係者644人が一堂に会する中、市川市長式辞、藤井消防長あいさつ、消防功労者への叙勲伝達や各表彰授与、来賓の山口県知事(代理)等からの祝辞の後、上田消防団長が訓示を行い、厳かに挙行されました。

式典終了後、消防音楽隊を先頭に、消防職団員、さらには23台の消防車両による分列行進の後、島田川川岸で消防車による一斉放水を行い、集まった市民の前で消防訓練を披露しました。



山口考古学フォーラム 第1回巡回展示

やまぐち復元「古墳時代の食卓」

1月4日から1月22日まで、文化センターで「山口考古学フォーラム第1回巡回展示『やまぐち復元「古墳時代の食卓」』」が開催されました。

この巡回展示では、古墳時代後期（紀元5～6世紀）の「食」にスポットを当て、古墳時代の住居跡から出土した食器である土器を、時代の流れに沿って展示し、その変化から読み取れる食器・炊飯様式の意義が紹介されました。

1月11日(日)には、「古墳時代の光市周辺」についての講演や展示解説が行われ、古墳時代について詳しく知らない人でも聞きやすいようにと、図や写真を豊富に使った説明がされました。来場者は、メモを取ったり、講師の説明にうなずいたり、熱心に話しを聞く姿が見られ、関心の高さがうかがえました。



寒風の中の激走

第54回光市駅伝競走大会

1月11日(日)、大和総合運動公園をスタートする第54回光市駅伝競走大会が開催され、早春の光路で、たすきがつながれました。寒風の中のレースとなりましたが選手たちの力走を前に、沿道の多くの市民が熱い声援を送りました。

なお、各部の一位は次のとおりです。

- 一般一部 徳高&高専
- 一般二部 大和中チームS
- 一般女子 大和中PTA
- 公民館 光井公民館A
- 高校男子 光高校陸上部A
- 高校女子 光高校陸上部A
- 中学校男子 室積中学校
- 中学校女子 大和中学校A

市民特派員の



池田信枝さん
(岩田)

まちがど レポート

大和観光ボランティアガイドの会をこ存じですか

市民による無料観光ボランティアガイドをこ存じですか。室積地区には、海商通りを中心に案内をされる観光ボランティアガイドがあります。昨年9月、大和地区にも大和観光ボランティアガイドの会（家永勝彦代表）が発足しました。伊藤公記念公園（伊藤公資料館）周辺を巡るコースと、石城山神籠石周辺を巡るコースがあり、分かりやすく説明しながら案内をしてくれます。

今回は、

伊藤公記念公園周辺のコースでガイドを務める秋山孝さんに案内していただき、秋山さんは、



「こころあまり耳にするここのない伊藤公の幼年時代のエピソードや、伊藤公のふるさと「束荷」のことを主に説明されているそうです。



ガイドの秋山孝さん

お聞きした幼年時代のエピソードを一つご紹介します。利助（伊藤公の幼名）が数人の友だちと束荷川をせき止めて遊んでいたときのこと。他の子どももせきは壊れて流されたが、利助の作ったせきだけは残っていたそうです。それは、利助がそのせきに水抜き穴を作っていたからとのこと。幼い頃から才知であった伊藤公の様子がうかがえるお話です。

このように、幼年時代を束荷で過ごした伊藤公について、とても興味深い話を聞くことができます。秋山さんは、ふるさとを思う気持ちと情熱を持ってガイドを務めているとのこと。伊藤公のふるさとを皆さんにじっくり見てほしいと話されていました。

こういったガイドの皆さんたちのおかげで、郷土のことが次の世代へと語り継がれていくのを、大変うれしく思いました。

観光ボランティアガイド問合せ

…商工観光課 ☎0833(72)1400